

令和6年度(2024年度)活動報告

◆研究所の活動◆ (主なもの)

○調査研究活動

市の持続的な発展と計画的な市政の推進に資するため、市を取り巻く社会経済活動の変動を見据えながら、中長期的視点に立った都市政策に関する調査研究を行っています。

令和6年度(2024年度)は「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究」を令和5年度(2023年度)に引き続き行っています。本調査研究では、充実した子ども・教育施策の実施に向け、子どもに関する教育・福祉などの行政データやアンケート調査を連結させ、分析を実施しました。

▶研究会・勉強会等

- ・[5月] 関西学院大学大学院総合政策研究科リサーチ・コンソーシアムポスターセッション参加



写真1 ポスターセッションの様子

- ・[6月] 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究にかかる庄内さくら学園視察
- ・[7月] 独立行政法人国際協力機構(JICA)視察受入れ
- ・[7月] 日本計画行政学会関西支部「第1回実例講座」参加
- ・[7月] 庄内よつば学園夏季合同研修会参加
- ・[9月] 日本計画行政学会第47回全国大会参加・発表
- ・[10月] 第83回日本公衆衛生学会総会参加・

発表

- ・[11月] 町田市ヒアリング受入れ
- ・[12月] 第10回自治体シンクタンク研究交流会議参加(鎌倉市)

★第15回都市調査研究グランプリ((公財)日本都市センター主催)にて最優秀賞を受賞

令和5年度(2023年度)に行った調査研究「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究」が、最優秀賞を受賞しました。最優秀賞を受賞するのは第12回・第14回に続き3度目となります。

○普及啓発活動

まちづくり・行政経営など都市政策全般に関する資料を収集し、市職員に提供しています。また、他の自治体や大学機関などと意見交換、勉強会などの交流も行っています。

▶グループ研究事業(総務部人事課共催)

- ・[8月~2月] グループ研究支援事業「くらしの豊かさ実感に関する研究」キックオフイベント・研究会4回・報告会キックオフイベント(講演会)「心理学のウェルビーイング研究について」講師: 関西学院大学文学部総合心理科学科准教授 一言 英文さん



写真2 キックオフイベントの様子

○データバンク事業

都市政策、地方自治に関する文献や資料を収集しており、職員へ貸出しを行っています。また、当研究所刊行物の一部は、市ホームページで公開しており、過去の刊行物は、市民への貸出しも行っています。

○人材育成事業

市職員の政策形成能力の向上を図る取り組みや大学インターンシップ生の受入れを行っています。

- ・[8月] インターンシップ生受入れ2名(関西学院大学・近畿大学) インターンシップ生が関心のあるテーマについて調査研究を行い、成果を発表しました。

◆調査研究報告会の開催◆

(総務部人事課との共催事業)

目的：令和5年度(2023年度)に実施した調査研究の報告を行い、都市政策に関する問題や本市の抱える課題等について職員の認識を深め、市行政に対する理解と市職員の政策形成能力を高める目的で開催しています。

日時：令和6年(2024年)7月2日(火)

14:30～16:30

会場：地域共生センター

【研究報告1】「全国学力・学習状況調査データの分析 ―子どもの学びと社会経済的背景―」

研究員 平田 誠一郎

豊中市内の児童生徒の「全国学力・学習状況調査」のデータを分析し、子どもたちの学力と家庭の社会経済的背景の関わりについて、学習への取り組みや生活習慣の観点から分析した結果を示すとともに、社会経済的背景によってもたらされる不利の克服の可能性について考察しました。

【研究報告2】「子どもパネルデータの分析から見えてきたこと」

研究員 比嘉 康則

豊中市が保有する行政データと、豊中市内の児童生徒とその保護者を対象に実施したアンケート調査の結果を結びつけた「子どもパネルデータ」の概要(データ内容、構築方法)などについて説明するとともに、子どもたちの授業理解度・非認知能力・健康と家庭の社会経済的背景との関係、不利の克服につながる可能性のある取り組みなど、1年目の分析結果を報告しました。



写真3 報告会の様子

【講演】「教育格差を捉え直す―日本社会のしくみという観点から」

講師：大阪大学大学院人間科学研究科

准教授 知念 渉さん

親の経済力や学歴といった観点から教育格差を捉えるだけでは不十分であること、日本特有の福祉・教育政策(日本社会のしくみ)という観点から教育格差を捉えることの重要性について、お話いただきました。



写真4 講演の様子